

第6学年国語科学習指導案

指導者 6学年担任

1 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう
「やまなし」「イーハトーヴの夢」

2 目標

- 文章構成の意図を考えながら、二枚の幻灯で作者が自然や命のすばらしさや尊さを大切に思っていることについて読み取ることができる。
- 文章構成の工夫を読む読み方や題名の意図や二つの場面構成を対比する読み、比喩表現、情景を読む読み方を身につけることができる。
- 「イーハトーヴの夢」を読み、「やまなし」や他の作品に流れている賢治の考えと比べながらその生き方や考え方を読み取り、感想を書きまとめることができるようにする。
- ブックトークをきっかけとして、他の人物の生き方や考え方が書かれている本に興味をもち、その人物の生き方や考え方を読み取ることができる。
- ファンタジーやおもしろさを内容とした読書から、人物の生き方や考え方が描かれている伝記やノンフィクションを読む読書に読み広げることができる。

3 指導の考え方

- 本学級の子どもたちは、5年生の「千年の釘にいどむ」の学習で、教材文の中の白鷹さんの挑む姿を読み取り、人が何かに挑む姿が描かれている本に関する教師のブックトークを聞いている。その中で、教師が紹介した本を読んだり学校図書館や自分の身近(公共図書館や家庭)にある「挑む姿が描かれている本」を探して読んだりしている。6年生の「森へ」の学習では、作者星野道夫さんの森に対する考え方を読み取り、学習と並行して、星野道夫さんの他の著作「アラスカたんけん記」「クマよ」などを読み、自然や生き物に対する思いにふれている。また、物語文「大造じいさんとガン」「わらぐつの中の神様」「カレーライス」などの学習において、同作者の作品にふれ学習後読んできている。しかし、普段の学校生活の読書の様子を見ると、怪談ものやずっこけシリーズ、ハリーポッターシリーズのようなファンタジーの作品に偏って読んだり、中には図鑑や低・中学年向きの薄い絵本を中心として読んでいたりする子どももおり、個人の読書のジャンルは偏っている傾向にあるといえる。

- 本単元は、教材「やまなし」から作者宮沢賢治が二枚の幻灯を通して伝えたかったことを読み取り、その後、資料「イーハトーヴの夢」から賢治の生き方や考え方を読み取っていく学習である。このように、本単元は、複合単元となっており、作品を読み取った後、さらにその作者の生き方や考え方を読み取ることができる。その作者の実際の生き方を知ることで、作者の伝えたいことをさらに深く読み取ることができる。このことが、他の物語を読む際にも、生きてくると考える。つまり、作者の実際の生き方の中に、作者の伝えたいことのヒントがあるのではないかという読み方である。

教材「やまなし」は、「前書き－五月の幻灯－十二月の幻灯－後書き」から構成されている。五月は動的な様子が、十二月は静的な様子が描かれており、五月、十二月に象徴される「かわせみ」、「やまなし」はかになにとって対比的な存在として描かれている。さらに、題名を「やまなし」として、伝えたいことが表現されている。また、比喩表現や擬声語・擬態語、二つの場面の対比など、賢治の独特な表現が駆使された象徴的で深い思想性をもつ作品であるといえる。宮沢賢治の思いや表現上の工夫がより表れた作品であるといえる。

資料「イーハトーヴの夢」には、宮沢賢治の生き方や考え方が書き表されている。この文章を

読むことで、先に読んだ「やまなし」という物語を書いた宮沢賢治という一人の人間の生き方や考え方にふれることができると考える。この資料を読むことで、確固たる理想をもち、切実に生きること、自然に対する思いを大切にしたい一人の人間の生き方や考え方をとらえることができ、さらに、宮沢賢治が書いた他の作品への興味を高めることができるものとする。

○ そこで、本単元の指導にあたっては、まず、「やまなし」を読みのおもて「二枚の青い幻灯で、作者が伝えたいことはどんなことだろう。」のもとに予見を考え、読み確かめていく。読み確かめていく段階においては、次の四つの視点において、比喩表現や豊かな情景を読み取りながら読み確かめていく。

①なぜ、五月と十二月の二枚の幻灯なのか。

②なぜ、めだたない小さな谷川の底のことを幻灯に写したのか。

③五月のかわせみと十二月のやまなしは かにの兄弟たちにとって、どんな意味があるのか。

④なぜ、題名が「かわせみ」「かわせみとやまなし」「谷川の底のかに」などでなく、「やまなし」なのか。

そして、読みのまとめの段階において、作者が「二枚の幻灯を通して私たちに伝えたかったこと」についてまとめ、「やまなし」に表れている宮沢賢治の自然の命に対する考え方をとらえさせたい。

次に資料「イーハトーヴの夢」では、「やまなし」とつないで読むことで、宮沢賢治の自然を大切にしたい生き方や人のために生きようとした生き方をとらえ、宮沢賢治の他の作品を読んでみたいという意識をもたせたい。その際、「宮沢賢治という人物が、どのような時代に生きて、何を考え、どのように生きていったのか。」という視点で読み確かめていく。

最後に、「伝記やノンフィクションの本を読み、その中に出てくる人物はどんな考え方をもち、どんな生き方をしてきたのか。」という視点のもとに、他の人物の生き方や考え方が描かれている伝記やノンフィクションの本のブックトークを聞かせる。「やまなし」や「イーハトーヴの夢」で読み取った人物の生き方や考え方と関連させ、その本に出てくる人物の生き方や考え方を読み取らせていく。そして、さらに、今まで自分が読んできた本の種類だけでなく、伝記やノンフィクションの本を読んでみようとする意欲をもたせ、子どもたちの読書のジャンルを広げていきたい。

4 図書館教育の立場から

国語科における5、6年の「読むこと」の内容において、「人物の見方や考え方を深める」ことが大事な指導事項となっている。また、新学習指導要領では、「読むこと」において、「目的に応じて、本や文章を比べて読むこと」という事項が明記されており、加えて「伝記を読み、自分の生き方について考えること」という言語活動が記されている。

今までは、本単元の学習を進めていくとき、「やまなし」「イーハトーヴの夢」を読み取り、その後、「銀河鉄道の夜」や「よだかの星」などの宮沢賢治の様々な作品を重ね読みして学習を進めていくことが多かった。それにより、賢治の自然や命を大切に、それに対する考え方を探っていく読み方で学習を進めてきた。しかし、今回は、「やまなし」から賢治の自然や命に対する考え方を、「イーハトーヴの夢」から賢治の生き方や考え方を読み取り、「人物の生き方や考え方」という点に焦点を当てた学習を進めていきたい。それにより、他の物語における人物の生き方や考え方に興味をもたせ、「伝記」「ノンフィクション」などの人の生き方や考え方にふれる読書活動へと進めていきたい。これは、他の物語文や説明文を読む場合においても、「その作者の実際の生き方を知ること、作者の伝えたいことをさらに深く読み取ることができる。作者の実際の生き方の中に、作者の伝えたいことのヒントがあるのではないか。」という読み方につながり、子どもたちの読書のジャンルも広げていくことができるのではないかと考える。

5 学習指導計画（全11時間）

過程 時	学習活動と内容	指導上の留意点 (◎…図書館教育に関連する留意点)
読 み の か ま え ・ 読 み の め あ て	<p>1 ○ 単元名とリード文，二つの題名から，学習のかまえを，題名「やまなし」と冒頭の文から，小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯を比べて読んでいくための読みのめあてを生み出すことができる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 単元名とリード文を読み，読みのかまえをつくる。</p> <p>3 題名「やまなし」について話し合う。 ・やまなしって何？ ・やまなしって果物のなしかな。 ・「カレーライス」のときは……，「一つの花」のときは……，「大造じいさんとガン」のときは……。</p> <p>4 題名から出た疑問を整理し，冒頭について話し合う。 ・「小さな谷川の底」ってあまり目立たない場所だね。 ・なぜ二枚の幻灯なのだろう。比べて見てほしいのかな。 ・幻灯にして，読む人に何か伝えたいことがあるのではないかな。</p> <p>5 題名と冒頭から，解決できなかった疑問をもとに，読みのめあてをつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><読みのめあて> 小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯で，作者は何を伝えたいのだろうか。（なぜ，「やまなし」という題名なのだろう。）</p> </div>	<p>◎ 本単元の学習に入る前に，学習と並行して宮沢賢治の他の作品を読むように子どもたちに呼びかけておく。</p> <p>◎ 宮沢賢治の他の本を図書館から借りてきて学年の廊下に置いておき，子どもたちがすぐ手に取って読みやすい環境を整えておく。</p> <p>○ 本単元は「やまなし」「イーハトーヴの夢」の複合単元であることを知らせ，どのような学習をしていくかを説明する。</p> <p>○ どんな読み方をしていくか補足説明をする。</p> <p>○ リード文を読み，この単元では，作品のみを読み取っていくのではなく，作者にも目を向け，作者のものの見方や考え方，生き方を探っていく学習であることをとらえさせる。</p> <p>○ 題名「やまなし」からどんな感じがするか，わかることや疑問に思うことを話し合わせる。</p> <p>○ 「やまなし」については知らない子も多いと思われるので，どんなものかイメージを出させた後，写真を提示し，ものが題名になっていることに気づかせる。</p> <p>○ 既習の物語文の題名を提示し，題名がその作品の主題を支える大切な役割を果たしていたことを想起させる。</p> <p>○ 冒頭の叙述に立ち止まらせ，疑問を書き込ませる。</p> <p>○ 「やまなし」は出てこないこと，「小さな谷川の底」を写していること，「二枚」の幻灯を出していることに着目して考えさせる。</p> <p>○ 「幻灯」について補足説明する。</p> <p>○ 「なぜ二枚の幻灯を見せたいのか」ということを問いかける。</p> <p>○ 「小さな谷川の底」を舞台にした意図，幻灯が二枚である理由を考えさせ，比べて伝えたいことがあることに気づかせ，読みのめあてを生み出すようにする。</p>

<p>予見</p>	<p>○ 全文を読み通し、五月と十二月の二枚の幻灯を比べ、作者が伝えたいことについて予見をまとめることができる。</p> <p>2</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 全文を読み通す。</p> <p>3</p> <p>3 二枚の青い幻灯はどんなものか簡単に図式化し、共通するものと違うものをまとめる。</p> <p>4 二枚の幻灯を構造化したものをもとに、自分の予見を書きまとめる。</p> <hr/> <p>4</p> <p>○ 一人一人が書きまとめた予見を話し合い、学級の予見を方向付けることができる。</p> <p>1 予見を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・五月と十二月の谷川の様子を比べてまとめている。 ・かになんかにかのかわせみの存在とやまなしの存在を比べてまとめている。 ・かへの成長をまとめている。 ・かわせみだけに視点をあてている。 ・かだけに視点をあてている。 </div> <p>2 学級の予見を方向付ける。</p>	<p>◎ 全文を読んでいくときに、難しい語句の意味を国語辞典を使って調べることができるようにする。</p> <p>○ 前時に生み出した読みのめあてを掲示しておき、本時のめあてを意識づける。</p> <p>○ 最初は教師が範読して、音読の仕方や難しい語句について確かめる。</p> <p>○ 二枚の青い幻灯が写しだしているものは何かを考えながら読むようにする。</p> <p>○ 二枚の幻灯を水面・水中・底の視点からまとめ、構造的にとらえることができるようにする。</p> <p>○ 書き出しを与え、予見を書きまとめさせる。「作者が二枚の幻灯で伝えたいことは、・・・と思います。そのわけは、・・・。」</p> <hr/> <p>○ 予見を書きまとめるときに、どこを視点として考えたか、視覚的に図の中に位置づけてとらえることができるようにする。</p> <p>○ 予見がどんな傾向かを事前にカルテ化し、組み立てた展開をもとに話し合いを進める。</p> <p>○ 複数の予見が出されると考えられるが、無理にまとめず、読み確かめながら伝えたいことをはっきりさせていくようにする。</p> <p>○ それぞれの予見の違いに気づき、どこを根拠として考えているかがわかるように指名して話し合いを進め、板書で整理する。</p>
<p>学習計画</p>	<p>5</p> <p>○ 予見の話し合いをもとに、作者が伝えたいことを読み確かめるための学習計画を立てることができる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 予見の根拠とする叙述から、伝えたいことを読み確かめる視点を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><「やまなし」を読み確かめる視点></p> </div>	<p>○ 予見を確かめるための手がかりについて話し合うことを前時の掲示物から意識づける。</p> <p>○ 五月と十二月の情景やかへの様子、かわせみとやまなしの様子の叙述を音読し、比べたいことを考えさせる。</p> <p>○ 叙述にはどう書いてあるか、どのように比べられているか確かめていくことをとらえさせる。</p> <p>○ 本単元は「やまなし」「イーハトーヴの夢」</p>

	<p>①なぜ、五月と十二月の二枚の幻灯なのか。</p> <p>②なぜ、めだたない小さな谷川の底のことを幻灯に写したのか。</p> <p>③五月のかわせみと十二月のやまなしはかにかの兄弟たちにとって、どんな意味があるのか。</p> <p>④なぜ、題名が「かわせみ」「かわせみとやまなし」「谷川の底のかにかに」などでなく、「やまなし」なのか。</p> <hr/> <p><「イーハトーヴの夢」を読み確かめる視点></p> <p>⑤宮沢賢治という人物が、どのような時代に生きて、何を考え、どのように生きていったのか。</p> <hr/> <p><発展読書での視点></p> <p>⑥伝記やノンフィクションの本を読み、その中に出てくる人物はどんな考え方をもち、どんな生き方をしてきたのか。</p>	<p>の複合単元であり、「やまなし」だけでなく、「イーハトーヴの夢」においても、どのような視点で読んでいけばよいかを話し合わせる。</p>
読み確かめ書き込み	<p>6 ○ 学習計画で話し合った読み確かめていく視点をもとに、書き込みを行う。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 学習計画で話し合った四つの読み確かめる視点について書き込む。</p> <p>(1) なぜ、五月と十二月の二枚の幻灯なのか。</p> <p>(2) なぜ、めだたない小さな谷川の底のことを幻灯に写したのか。</p> <p>(3) 五月のかわせみと十二月のやまなしはかにかの兄弟たちにとって、どんな意味があるのか。</p> <p>(4) なぜ、題名が「かわせみ」「かわせみとやまなし」「谷川の底のかにかに」などでなく、「やまなし」なのか。</p> <p>3 作者が二枚の幻灯を通して伝えたいことを考え、書き込みを行う。</p>	<p>◎ 「かわせみ」「幻灯」などについて本で調べたことを書き込みの中に情報として入れていく。</p> <p>○ 学習計画表をもとに、前時とのつながりをもたせて意識づける。</p> <p>○ 谷川の様子ที่わかる叙述にサイドラインを引き、どんな様子か比べて伝えたいことを書きまとめる。</p> <p>○ 四つとも書き込むことが難しい子どもには、自分が一番書き込みやすい視点で書き込んだり根拠となる叙述に着目できるような助言を行う。</p> <p>○ 二枚の幻灯を比べて書き込みができるような読み取りプリントを工夫する。</p>
話し合	<p>7 ○ 書きまとめたものをもとに、二枚の幻灯を通して作者が伝えたいことを読み取</p>	<p>○ 書き込みをもとに、子どもの読みをカルテに表し、代表児童の提案をもとにしながら計</p>

い	<p>り、予見を確かめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時のめあてを確かめる。 2 五月と十二月の谷川の様子を比べて考えている代表児の提案を聞き、五月と十二月の谷川がどんな様子でどのように比べられているかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・あわ、日光の黄金 ・水晶のつぶ、金雲母のかけら、月光 3 かににとってのかわせみとやまなしの存在を比べて考えている代表児の提案を聞き、かににとってかわらみとやまなしがどのような存在であるかを話し合う。 4 なぜ、題名が「やまなし」なのかについて話し合う。 5 話し合ったことをもとに、この物語を通して、作者が伝えたかったことは何だったのかについて話し合う。 6 本時学習を振り返り、まとめる。 	<p>画的・意図的な指名をして話し合いを進めていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 五月は明るく生き物が活発に生きているが厳しい世界を表し、十二月は静かで平和な世界を表していることを読み取ることができるようにする。 ○ 代表児には、根拠を確かにして提案させるようにする。 ○ かわせみは怖ろしいものを象徴するように書かれており、やまなしはやさしく平和的なものを象徴するように書かれていることを読み取らせる。 ○ 子どもの読み取ったことをもとに、発問により、作者が題名を「やまなし」として伝えたいことを表している意図に気づかせる。 ◎ 宮沢賢治の他の作品で述べられている自然や命に対する考え方を読み取り、それと比べながら「やまなし」で伝えたかったことを発表する。
読みのまとめ・読み方のまとめ	<ol style="list-style-type: none"> ○ 読みのまとめと読み方のまとめができる。 1 本時のめあてを確かめる。 2 読みのめあてに戻って、作者が伝えたことを書きまとめる。 3 読み方のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・二つの場面構成やことばを比べて読み取ってきたこと。 ・比喩表現を読み取ってきたこと。 ・情景を読み取ってきたこと。 ・題名の働きを読み取ってきたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習プリントや掲示物をもとにして、読み確かめたことや読み方を振り返る学習であることを意識づける。 ○ 書きまとめた後に自分が予見のときに書いたものと比べさせ、読み確かめでたしになったことを実感することができるようにする。 ○ カード化した読み方を貼り、この物語で学習してきた読み方を意識させるようにする。 ◎ 宮沢賢治の他の作品においても、比喩表現や情景の読み取り、題名の働きなどについて考えることができるようにする。
発展読書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方にふれ、伝記やノンフィクションの本を読み、その中の人物の生き方や考え方にふれるという発展読書への意欲をもち、それらが描かれている読書へと読み広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 宮沢賢治の実際の生き方が描かれている「イーハトーヴの夢」を読むことにより、賢治が作品を通して伝えたかったものがさらによくわかるのではないかと、賢治の生き方・考え方が「イーハトーヴの夢」にこめられているのではないかとという伝記に関する興味・関心をもたせるようにする。 ○ 「イーハトーヴの夢」を読み、作者の考え方

	1	本時のめあてを確かめる。	や生き方を読み取っていこうとする課題意識をもたせるようにする。
	2	「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について書きまとめる。	○ 人物の考え方は会話文に、生き方は行動に表れていることを知らせ、読み取らせていく。 ○ 作者の生き方や考え方が表れている叙述に線を引かせながら読ませる。
10 (本 時)	3	伝記やノンフィクションの本のブックトークを聞き、他の人の生き方や考え方が描かれている本を選ぶ。	◎ ブックトークを聞くことにより、人物の生き方や考え方が描かれている伝記やノンフィクションに興味・関心を持ち、それらの本を読んでいこうとする読書へと広げることができるようにする。
11	4	自分が選んだ本に出てくる人物の生き方や考え方を読み取って書きまとめ、発表する。	○ 印象に残ったところを手がかりにしながら、「～な考え方をもっていた人」「～ことを大切に生きてきた人」というように書きまとめさせるようにする。

6 本時

平成20年10月20日(月) 5校時

高学年図書室にて

7 本時の目標

- 人の生き方や考え方が書かれてある伝記やノンフィクションなどのブックトークを聞き、その中から共感した人の生き方や自分が読んでみたい本を選ぶことができる。
- ブックトークを聞いて、「やまなし」「イーハトーヴの夢」で読み取った宮沢賢治の生き方や考え方とつないで、他の人の生き方や考え方が書かれている伝記やノンフィクションの作品に興味をもち、それらの本を読む読書に読み広げることができる。

8 本時指導の考え方

前時までには、子どもたちは、「やまなし」「イーハトーヴの夢」を読んで宮沢賢治の作品に描かれている自然や命を大切にする考え方や強い理想をもって人のために生きた賢治の生き方にふれている。また、学習と並行して、賢治の他の作品を読んできている。

本時の学習は、今まで学習してきた宮沢賢治の生き方や考え方を想起し、人物の生き方や考え方が描かれている伝記やノンフィクションの本を読む読書活動に広げていくことを目的としている。

そこで、本時指導にあたっては、「人の生き方や考え方が描かれている本」に興味を持たせるために、大きく次の二つの手だてを考えている。

①ブックトークを使って本の紹介をし、伝記やノンフィクションなどの人の生き方や考え方が描かれている本の世界へと誘う。

②図書館内に「人の生き方や考え方が描かれている本」のコーナーを作り、子どもたちがすぐに手に取れるようにしておく。

まず、子どもたちに伝記やノンフィクションの楽しさをわかりやすく短い時間で紹介するために、ブックトークを使って学習を進めていくようにする。宮沢賢治の生き方や考え方とつないでいき、子どもたちが、それらの本に出てくる人物の生き方や考え方をとらえることができるように、ブックトークの中で、その人は何に対してどのような考え方をもっていたのか、どのような生き方をしたのかということを中心にして、本を紹介するようにする。さらに、子どもたちが伝記やノンフィクションに興味をもちやすいように、現在学習している歴史上の人物や著名なスポーツ選手などの本も入れて、

その人物の生き方や考え方を紹介していくようにする。

また、子どもたちにブックトークで紹介した人物の生き方の中で、どの人物に共感を覚え、自分が読んでみたい本はどの本だったかということを経験とともに発表させ、自分がこれから選ぶ伝記やノンフィクションへの本への道しるべとさせたい。

9 本時の展開(10 / 11)

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 宮沢賢治の生き方や考え方を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然やそこに息づく命を大切にした。 ・人のために生きようとした。 <p>2 自分が知っている偉人について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長 ・ナポレオン ・豊臣秀吉 ・ショパン ・徳川家康 ・モーツァルト ・マザーテレサ ・エジソン <p>3 本時のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 想起が難しい児童には、掲示物に書かれてあることを指し示しながら想起することができるようにする。 ○ 偉人について補足説明する。 ○ 偉人の業績や功績を記した本を「伝記」ということを知らせる。 ○ 史実や記録に基づいた文章を記したものを「ノンフィクション」ということを知らせる。
<p>ブックトークを聞いたり伝記やノンフィクションの本を読んだりして、その本に出てくる人の生き方や考え方を知ろう。</p>	
<p>4 人の生き方や考え方が描かれている本のブックトークを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファールブル ・坂本竜馬 ・イチロー ・夢かけるトップアスリート北島康介物語 ・あきらめないこと、それが冒険だ ・谷亮子物語 <p>5 ブックトークを聞いて、感想を書きまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブックトークの中で、その人は何に対してどのような考え方をもっていたか、どのような生き方をしたかということ子どもたちに話すようにする。 ○ 子どもたちが興味をもちやすいように、現在学習している歴史上の人物や北京オリンピックで活躍したスポーツ選手のことが描かれている本などもブックトークの紹介の中に入れる。 ○ ブックトークで紹介した本の中で、読んでみたいなと思った本があったか、またそれはどうしてかを尋ね、伝記やノンフィクションを読もうとする意欲をもつことができるようにする。 ○ ブックトークで紹介した本の中に出てくる人物の中で、自分はどの人物の生き方がよかったと思うかも、理由の中に入れて発表できるようにする。 ○ 学習の前から、図書館内に表示をしてコーナーを作っておき、子どもたちの目にふれやすいようにしたり手に取りやすいようにした

6 学校図書館にある伝記やノンフィクションの本を紹介し、どの本を読みたいか選ぶ。

7 次時の予告を聞く。

- 次時は、自分が選んだ本に出てくる人物の生き方や考え方やそれに対する自分の感想を発表する中で、自分が選んだ本を紹介し合う時間であることを知る。

りしておく。

- 本の題名となぜその本を選んだのか理由も加えて書きまとめさせる。
- 「やまなし」「イーハトーヴの夢」で読み取った学習の仕方と関連づけ、自分が選んだ本の人物の生き方や考え方をもとに、その本を友達に紹介する時間であることを伝える。